



## 背景に手形操作か？ 医療機器業界の連鎖倒産

2022年10月、医療機器業界で大がかりな連鎖倒産が発生しました。発端は、医業経営コンサルティングの「アイテック」（東京都）で、10月17日に負債132億円を抱えて東京地裁へ民事再生法の適用を申請。その後、わずか2週間のうちに関連2社が連鎖倒産しました。アイテックの直近決算は資産超過で、黒字経営でした。本来つぶれるはずのない会社の破綻劇に、業界内は一時この話題で持ちきりになりました。

### あまりに大きな負債規模と相次ぐ連鎖倒産

同社は、1981年5月に設立され、病院開設や医療設備のコンサルティングを手がけていました。取引先や株主には大企業が名を連ね、多様な医療機関から様々な情報をいち早く入手できる立場を生かして事業を展開し、2022年4月期には年収入高約161億円を計上しました。

しかしこの間、海外事業で収益が悪化していたうえ、為替変動による差損も発生。国内事業の強化に取り組んだものの支え切れず、民事再生法による再建を目指すこととなりました。

直近の決算書上の負債総額は約30億円で、約20億円の資産超過と見られていましたが、民事再生法申請時に明らかとなった負債総額は、決算書記載の金額の4倍を超える約132億円でした。しかも、この132億円のうち100億円超が、金融機関の手形割引残や取引に対する手形債権であることもあわせて判明しました。

あまりに大きな負債規模に、業界関係者が一

様に首を傾げるなか、大口の手形債権者だった医薬品・医療機器卸の「コーケン」（東京都）や、医療機器卸の「ジェミック」（東京都）が同じ月に相次いで連鎖倒産に追い込まれました。

現時点では、アイテック破綻の真相をはじめ、一連の連鎖倒産の背景についてわかっていない部分が少なくありません。ですが、倒産した3社のうちジェミックが唯一認めているように、「多数の取引先の間で、巨額の手形操作を通じた架空・循環取引を行っていたのではないか」との疑念が取り沙汰されています。

### 取引先の些細な不審点にも要注意！

一般に医療機器卸業界では、特定の医療機関や地域の案件に際して窓口役となるような業者が多く、その差配のもと、エンドユーザーとなる病院とメーカー・卸業者の間に複数の会社が入る商流は珍しくありません。間に入る業者の元を実際の商品が流れることはなく、伝票のみがやり取りされることも多いそうです。

これらの不透明な手形操作に、意図せず巻き込まれた取引先も少なからずいたようです。

「脇が甘い」と言えばそれまでですが、以前この取引に加わっていた業者のなかには「この商流は危ないと感じ、数年前に撤退した」との声も聞かれます。

取引先の与信管理においては、些細な不審点も見逃さず、疑問点は徹底して追及する姿勢がいまこそ求められるでしょう。 ▲

**ないとう おさむ** 2000年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部を経て2022年4月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。